

gical Sciences. Satellite Meeting 'Motor System' (1974).

(ボンペイで開かれた第26回国際生理学学会衛星シンポジウム招待講演)

- 6) Suprasegmental control of mastication and swallowing.

Kisou Kubota.

Symposium "Mastication and Swallowing: Biological and Clinical Correlates". (1974).

(バンクーバーで開かれたシンポジウム招待講演)

- 7) Somatosensory regulation in motor cortex.

Meyer-Lohman, J., Conrad, B., Matsunami, K., and Brooks, V. B.

Proc. Internat. Physiol. Soc. Vol. 11, 162 (1974).

- 8) Feedback inputs to Deiters' nucleus from neck extensor muscles.

Mikami, A.

Proceedings of International Union Physiological Sciences. Vol. 11, (1974).

- 9) 短期的視覚記憶と下部側頭回一遅延見本合わせ課題と弁別学習一

井深允子・久保田鏡・岩井栄一

日本心理学会第38回大会発表論文集, 356—357 (1974)

- 10) Go-Signal なしの遅延反応の時の前頭葉ニューロン活動

小嶋祥三・久保田鏡

日本心理学会第38回大会発表論文集, 368—369 (1974)

- 11) 遅延反応の未完全学習時における前頭前野ニューロン活動について

久保田鏡・小嶋祥三

日本生理学雑誌, 36巻, 284 (1974)

- 12) Force Pulseに対する大脳運動野のユニット発火様式及びそれに対する小脳歯状核冷却の影響

松波謙一

第21回生理学中部談話会予稿集, 20 (1974)

心理研究部門

室伏靖子・井深允子

浅野俊夫・小嶋祥三

研究概要

- 1) スプリット・ブレインにおける視覚情報伝達と反応

- 1) 久保田鏡(神経生理部門)との共同研究

決定機構の研究¹⁾

室伏靖子・南雲純治²⁾

視交叉、脳梁および前交連を切断されたアカゲザルの光刺激に対する反応時間は、光刺激が与えられる眼と反応する手が同側の場合、いちじるしくおくれることが見出された。この事実を生じる要因として、知覚的抑制と反応禁止が仮定され、それらを分離するための実験が行われた。

- 2) 記憶のメカニズム

井深允子³⁾

昨年度にひきつづき、視覚的短期記憶の生理学的背景機構の解明を行なった。そして下部側頭回の破壊が視覚刺激(色)の遅延マッチングに特異的に影響を持つことを、条件性位置弁別反応との比較から、明らかにした。

- 3) 強化スケジュールの研究

浅野俊夫・E. Fantino⁴⁾

ニホンザルの tandem, second order スケジュールでの行動パターンについて検討を加えた。

- 4) 行動と脳の関係についての研究

小嶋祥三

学習行動とニューロンの活動との間の関係を検討した。特に眼球位置を行動的に制御した条件下で視覚刺激のもつ物理的属性、心理的・行動的属性を変化させ、前頭前野のニューロン活動との対応関係を検討した。

総説

- 1) 室伏靖子(1974): サルの行動に関する心理学的実験法。生体の科学, 25: 251—255。

論文

- 1) 坪内良博・浅野俊夫・水野浩一(1974): 稲作と人間、稲と農民(市村真一編)。pp. 58—104。京大東南アジア研究センター。
2) Ichimura, S., K. Mizuno, Y. Tsubouchi, T. Asano and others (1974): The socio-economic behavior of peasants in central Java and central Thailand. Southeast Asian Studies 12: 322—343.

学会発表

- 1) 短期的視覚記憶と下部側頭回: 遅延見本合せ課題と弁別学習

井深允子・岩井栄一・久保田鏡

日本心理学会第38回大会(1974)

- 2) Ablation of a small circumscribed portion of the inferotemporal cortex under delayed

- 2) 文部技官

- 3) 昭和50年4月30日退職

- 4) 昭和49年度招聘教授

matching to sample task.

Ibuka, N., K. Kubota, and E. Iwai.
5th Cong. Int. Prim. Soc. (1974)

- 3) Go-signal なしの遅延反応の時の前頭葉ニューロン活動

小嶋祥三・久保田鏡

日本心理学会第38回大会 (1974)

- 4) 遅延反応の未完全学習時における前頭前野ニューロン活動について

久保田鏡・小嶋祥三

日本生理学会第51回大会 (1974)

社会研究部門

川村俊蔵・河合雅雄

東 滋・鈴木 晃

森 梅代・足沢貞成

研究概要

- 1) ニホンザルの社会生態学に関する研究

1. ニホンザルの分布とその変動に関する研究

東 滋・鈴木 晃・足沢貞成

昨年まで、川村らがおこなった京都、兵庫、滋賀、和歌山、三重、岐阜、宮崎のニホンザルの分布の現状について、一次資料の集積をおこなった。

岐阜、宮崎両県と東北地方の南部について、ニホンザルの分布像の形成過程—多くは地域個体群の衰退史である—をたどった。また、千葉徳爾共同研究員との協力のもとにそれに関与した狩猟活動、森林利用の形態など人為営力の加わり方を社会経済的・文化的背景との関連にも追究をすすめた。

2. ニホンザルの社会生態学—とくに自然群の環境利用とグルーピング・社会構造

東 滋・足沢貞成

ニホンザルの群れの連続した分布をゆるす環境で、遊動する群れがしめす生活と社会現象をとらえなおすために屋久島と下北半島西部の地域個体群について継続的な調査をおこなっている。

3. ニホンザルの個体群と生活の維持に対する森林施業その他の human impact の影響の生態学的研究

東 滋

ニホンザル個体群の地域構造や生活のたてかたに与える人為営力の作用を生態学の文脈においてとらえる。もっぱら“自然”の側の反応を異なる形式あるいは程度で人為の加わった地域間の比較と同一地域の時系列的変化の追跡により把握しようとする。下北半島の北西部・南西部の2つの地域個体群についての個体群変動の追跡と岐阜県下の天然林地域と“森林開発”のすすんだ地域の

予備的調査をおこなった。

また平行して、おなじ環境変化がニホンザル以外の森林哺乳動物に与える影響についても調査をすすめている。

4. 上信越山岳地帯のニホンザルの社会生態学的研究

鈴木 晃

- a. 積雪地帯への生態的適応の様式
b. 個体群動態からみたニホンザルの群間関係
c. 群間関係からみたオスの問題
d. ニホンザルに於ける地域個体群とは何か

5. ニホンザルの地域個体群のあり方

鈴木 晃

上記上信越地方以外に房総丘陵及び箱根湯川原地方のニホンザルの地域個体群のあり方について、共同研究の対応者として共同研究をおこなった。

- 2) 海外調査に関するもの

1. ゲラダヒの社会・生態学的研究

河合雅雄・森 梅代

1973. 6—1974. 3 にエチオピアで行なったゲラダヒの生態学的・社会学的研究のまとめ。

2. メンタウエイ諸島における4種のサルの社会学的研究

川村俊蔵・渡辺邦夫¹⁾

インドネシアのメンタウエイ諸島中のシブルット島において、インドネシア側研究者3名との共同研究としてシンパナザル、メンタウエイヤセザル、メンタウエイブタオザル、コピテナガザルの4種に関する比較社会学的研究を行ない、メンタウエイブタオザルを除いて、あとの3種はすべて家族的な小単位で生息し、生息地の大きさは10～15ヘクタールであることを知った。

3. 特別事業による海外調査とそのまとめ

鈴木 晃

- a. ウガンダに於ける各種霊長類の比較生態学的研究
b. 森林地域にすむチンパンジーの社会学的研究
c. ケニアに於ける各種霊長類の分布様式の調査と比較生態学的研究。特にタナ川に於けるタナリパー・レッドコロブス、タナリパー・マンガベイの子察調査

- d. マダガスカル島に於ける原猿類の予備調査

アフリカに於ける野外調査を1972年8月より続行し、本年度に入り上記の調査をおこなった後、1974年6月16日帰国。以後調査の整理とまとめをおこなっている。

- 3) 野生動物の保護と農林業への被害防除の基礎的研究

- 1) 大学院学生